

第18回 富山県生涯学習審議会 議事概要

1 日時 平成17年10月17日(月) 14:00～16:00

2 場所 県民会館302号室

3 議題

(1) 報告事項 「県の生涯学習施策の方向について」

(2) 協議事項 「富山県民生涯学習カレッジのあり方について」

4 配付資料

資料1 富山県生涯学習審議会条例

資料2 第7期富山県生涯学習審議会委員名簿

資料3 富山県生涯学習推進本部幹事会幹事名簿

資料4-1 新総合計画課題別研究会(学校教育・生涯学習・スポーツ)
検討テーマ「家庭と地域の教育力の向上」

資料4-2 同 検討テーマ「生涯学習の推進」

資料5 中央教育審議会生涯学習分科会(平成16年3月29日)

「今後の生涯学習の振興方策について(審議経過の報告)」抜粋

資料6 「富山県の生涯学習の現状と全国比較」(文科省「社会教育調査」より)

資料7 富山県民生涯学習カレッジのあり方(総括表・事業別)

5 議事等

出席者紹介、中川委員に会長を委嘱し、司会進行を委任、教育長挨拶、事務局資料説明等を行い、その後、概ね次のような発言が行われた。

司会、 質問・提言、 事務局説明

(1) 報告事項

県の生涯学習施策の方向について

(2) 協議事項

富山県民生涯学習カレッジのあり方について

<協議>

総括表について協議していただきたい。

これまで私たちは校区単位で自主独立にやってきたつもりだが、進むべき方向については行政の指導があった。生涯学習について、富山県は民間も育っていてよい。しかし、国全体が統一され、一つの方向へ向かえばよいというわけではない。

- ・社会を見回したとき、方向性は一つでなくてよいのだが、指針がないと自分たちで歩いていくときに困ってしまう。
- ・県のボランティア組織への関わり方としては、目指すべき方向性は示すことが大切である。

県の財政が厳しい折、事業の縮減等、民間教育事業者、市町村との重なりのある部分はやめていくべきである。

- ・資料の「新しい公共」について、20世紀は行政主導で提供しそれに住民が参加して

いる形態だった。21世紀に入り、生涯スポーツ社会では、住民自らがスポーツに参加し、取り組むべきだろうという観点に立ち、富山県の各市町村では、総合型地域スポーツクラブが設立されている。自分たちで会費を出し、自主運営するもので、広い年齢層が参加し、その中で指導者は一貫した指導を行う。これを、県の新世紀スポーツプランにも位置づけ10年間で、全県展開し、自主運営できるクラブをつくらうと進めている。

- ・「新しい公共」はスポーツの分野ではすでに生かされている。今はまだ補助金の交付を受けているが、ゆくゆくは独り立ちして取り組んでいくことが地域の活性化に結びつけばよいと考えている。

指導員はどんな方が。

体育協会には、種目毎の協会があり、その協会の指導者を活用する。また、地域の体育指導員1,300人、スポーツリーダーバンクに登録している人(4,000人)を活用しながら進めている。

事前に資料に目を通したが、日本中同じでよいのか疑問を感じた。この資料は富山県という観点が欠落している。富山県らしい勉強、教育、順位は出てくるが、情、心、文化、技術、芸術が出ていない。楽しむという元々人間が持っている心を育てる意味のところを加えるべきである。新総合計画の目指すべき姿、富山県のどの特色を明確にすべきである。

- ・男女共同参画、男女共同就労と家庭教育の担い手をどう説明すればよいのかを最近よく考えている。男女同権は賛成だが、男の役目、女の役目が全て一緒によいのだろうか。共同参画と子どもたちの成長をどう支えるか、どういう風に家庭教育を行うか、どうやってそれらの言葉を共生させるか、一緒に生かすのは大きい問題だと感じている。

男女共同参画、女性と男性の平等について、北京のNGOフォーラムで、ヒラリーさんが「女性の権利は人権である」と言われた。それを聴いて勇気もらって帰ってきた。女性の権利が先か人間としてどちらが先か。人間は1個の生物、1個の動物である。そのものの役割は、先祖から受け継いだものを次の世代につないでいく役割が先行する。それが全ての生物の役割なのに、それを忘れていて、子育て支援を充実させても少子化が改善されない。

- ・社会全体で人としての役割を大切にす視点を重視したい。まず子育て、産み育てることを3歳までは母が担い、それをみんなが守っていく。そんなことが大切だ。

貴重な例を頂いた。他県では生涯学習センターが生涯学習にそういった家庭教育の講座を行っている。本県の場合は共生センターが行っている。

「家庭の教育力」という言葉は、本当に理解されているか。教育力という安易な言葉を使うとそこで考えがストップしてしまうことがある。富山県らしさがストップしてしまうのでは困る。

- ・ある地域では、地元をPRしていく際3つの条件、縛りをつけた。その一つに“発信”という言葉は使わないという条件があった。「情報発信」など、発信という言葉を使うと何にでも応用が利くが、PRで使わないという厳しい条件をあえてつけて一生懸命考えた。そのため、「教育力」という言葉を見たとき嫌な思いをした。
- ・今回の資料では、ボランティアへの移行といっているが、具体的な案が出ていない。
- ・現在生涯学習におけるボランティアの現状、どんな組織があるのか。今後機器の更新

が難しいとあるが、将来的にはそれもボランティア組織でみていかなければならないのか。また、テレビ放送講座の視聴率と効果が上がっているのかを質問したい。

ボランティアの登録は2,200名ほどだが、生涯学習団体協議会の会員が(平成17年3月で)9,600名おり、カレッジ学遊祭、生涯学習講座等様々な機会に参加されている。

- ・テレビ放送講座の視聴率はビデオリサーチ調査によると11.5%(平成16年度)である。
- ・機器の更新はボランティアでは難しいだろう。

内容、方法は出ているのだが、ボランティアコーディネーター育成には時間がかかると資料に書いてある。富山県として、生涯学習を進展するために、移行に何年かかるかプロセスを示す必要がある。

- ・現在ある組織、人を活用し活動を通しながら更に育てていく「活用と育成」が大切である。

ボランティアの現状については1つの例として、夏季講座のお手伝いがある。今後は企画の段階から加わっていけるような人をまじえて少しでも先のことを見通せるようになる。現時点で何年後とは言えないが、なるべく早い段階で資質・能力の高い人が出ていただきたい。

現在の県民カレッジの予算はどの程度か。また、収益があるとは思えないがボランティア組織に委託したとき、収益がプラスになった場合、マイナスになったときどう考えているか。

17年度、人件費を除いた事業費は6,000万円。これは16年度と比較して20%減となっている。

- ・受講料収入は600万円位である。ボランティア組織でペイするかは疑問である。
- ・中身の良いものは受講者も集まるだろう。良いものと悪いものを取捨選択していかなければならない。また、人的、財政的支援をすぐに無くすことはできないだろう。

行政の包容力が強いと感じる。民間やボランティア組織をもっと信用してもよいのではないか。自分たちで運営している団体は強い。2,200人のボランティアが育っていて、いろんな点で心配が無くなる。公は今まで至れり尽くせりすぎである。

- ・地域の教育力については、こんなことがあった。家族の調子が悪く、女の子が一人で銭湯にきた。フロの入り方が悪く注意したが聞かない。番台に言ったところ女の子の家族に銭湯に来てもらったら困ると注意した。家の人が学校の先生に相談したところ、先生が女の子と一緒に銭湯に来て入り方を教えた。その後先生は、地域でも子供を育ててくださいとおっしゃった。地域で子供を育てるのはまだ難しいのだろうと実感した。

生涯学習は幅広い。県として様々なことを提供している。現状を調査しているか。県民の要望はどうか。どこまで望んでいるかを調査した上で判断して欲しい。

- ・情報化の時代なのだから、事業の重なりは県民が取捨選択できる。
- ・富山県らしさ、県でしかできない情報、体験は子供達に参加させたいので提供してほしい。しつけについては3つまでに優しい心、6つまでにしつけ、9つまでに人の話を聞ける態度と優しい言葉遣いを身につける家庭教育を向上させたい。

カレッジ受講者の満足度は高いという調査結果が出ているが、個々の事業での調査はやっていない。今後の姿を検討していく際、方向付けの資料として収集を検討したい。

「新しい公共」の概念に立ちながら、今後の事業実施の生涯学習事業実施についてボランティアの役割を高めていくことが一つのポイントとなる。逆に行政の役割をどう高めるか。生涯学習の推進には公民館の整備、情報インフラの整備、人材育成、生涯学習のあり方の調査研究が県の役割だろう。組織にお金を払うのではなく人材育成を行う。これまで行政が丸抱えで事業を進めることは多々あったが、それが全部でなかったからこそ、いろんな分野でボランティアが育ってきた。

- ・人材育成は当面の措置として考えるが、継続し行っていく。企画運営をボランティア組織に任せていくという県の姿勢を全国に先駆け作ってってもらいたい。生涯学習の目的として期待している。

ボランティアの活用とあるが、学習ばかりで楽しい面がないと成り立たない。ボランティアはボランティアでも体をかけるボランティア、知的なボランティアは楽しく学ぶことが必要であると認識して欲しい。

- ・教養講座では4地区でそれぞれ10講座提供しており、段階的に受講料を上げることは可能である。また、ボランティア組織への移行についての目標を明示してほしい。目標をどこにもつか、来年どのくらい縮小していくなど具体的に出れば、もっと意見が出てくる。
- ・講座は各市町村でも花盛りで、あちらでもその話は聞いたと講師が重なることなどは正すべき点もある。いろんな意見を吸い上げることによりどうすればよいかが出てくるはずである。

県の役割、方向性は適切であると思う。具体的内容で富山県らしさを出すことが重要である。

- ・民間に移行することの意味づけ、理由付けを明確にすることが必要。ある委員が、財政的という印象を受けると言われたが、そういった意味は無いと思うので、明確に民間に移す基本的考えを押さえ、教育の機会均等の学習権については、民間に委譲してでも地域格差を出さないよう努める。
- ・県民のニーズは単なるアンケート調査だけでは捕らえきれない。潜在的な学習ニーズを取り入れるためにボランティアを活用し、パーソナルな関係での調査方法も取り入れるべきである。

以上のような討議の後閉会となった。